

平成26年度第2回建築学教育FD/ICT活用研究委員会議事概要

I. 日 時：平成26年7月31日（木）14：00～16：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局 会議室

III. 出席者：衣袋委員長、前田委員、寺井委員、澤田委員
（事務局）井端事務局長、野本

IV. 議事概要

1. 対話集会の開催について

1.1 対話集会の目的

- ・一方通行ではないやり取りのある「対話集会」を目指す。成功事例紹介のみならず、教員・職員が、自身の抱える課題や悩みについて意見交換する場とする。
- ・国交省官庁営繕部は、＜「BIM ガイドライン」の策定について＞（平成26年3月19日）を発表した。建設業は、今後ますます BIM を有効活用する方向に向かう。大学等教育機関もこれを受け、BIM・ICT を活用したアクティブ・ラーニング実践など教育方法の改善が求められている。

（国交省 HP http://www.mlit.go.jp/report/press/eizen06_hh_000019.html）

- ・2014年日本建築学会大会にて、建築教育部門—パネルディスカッション「大学・企業における BIM への取り組みと教育の現状」を実施する（BIM 教育調査 WG・主査：衣袋洋一）。建設業各社の BIM 教育状況の報告と社会が大学等教育機関に求める事項についての討論が主な内容。
- ・参加者の話題提供について：建築分野における「アクティブ・ラーニング」は、まちづくりのワークショップが主で、ボトムアップ的手法の実践が行われている。技術系からは出にくいのではないか。
- ・タイトルについて：他の分野でも、知の協働や創発を生み出すような事例は数少ない。タイトルは、「協働」「創発」「包括」などのキーワードを用いるのがよい。
⇒タイトルは下記＜1.3-（2）-①＞の通りとする。

1.2 開催要項の検討

- ・日時：2014年12月13日（土）14:00～16:00
- ・場所：芝浦工業大学豊洲校舎 PC 講義室（3室／対話集会・デモ・予備、教室棟6階）
 - ① 12月12日（金）14:40～21:00※デモ環境準備
 - ② 12月13日（土）9:00～19:00
- ・参加対象者：加盟校に所属する教員及び教育支援に関係する職員
- ・定員：50名（先着順）※芝浦工業大学関係者（学生、教員・職員等）を含めて最大70～80名。
- ・プログラム ※以下、時間は暫定
 - （1）開催趣旨説明とこれまでの研究の経緯（10分）
衣袋洋一（建築学教育FD/ICT活用委員会委員長、芝浦工業大学名誉教授）

(2) アクティブ・ラーニングの取り組みに関する話題提供

①「ロールプレイングによる協働設計授業」

～卒業生及び学生によるデモンストレーション～（40～50分）

澤田英行（建築学教育FD/ICT活用委員会委員、芝浦工業大学システム理工学部教授）

※学生の気づき・問題発見と解決、遠隔による学外の参加者（卒業生、非常勤講師）にとっての学びなどを紹介。

※限られた時間で行うため、授業システム概要（目的、参加者、実践内容など）と授業の一部をデモで簡単に説明。

②「参加者による話題提供」

※募集をかけ建築学グループ運営委員会にて選定する。

(3) 意見交換（50分）

分野別の教育改善モデル及び話題提供を題材に、アクティブ・ラーニングを効果的に進めるための意見交換。取り組みが十分達成されない要因、今後の改善点、教育効果を判定する基準・方法などの課題について議論する予定。

※議題が多いと散漫になるので、予め公募して選定する。

※理解を一層深めるために参加された先生方で、理解を一層深めるため、(2)-①の体験ロールプレイング授業を予定。3～5名程度。

(4) 課題整理とまとめ（10分）

V. 次回の開催日程

- ・次回の開催は来年度とし、12月に対話集会を開催することにした。